

No. 343【2019年2月8日配信】

合浦公園内にあった児童文化館(担当:村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。

昨年、歴史資料室に「合浦公園内にあった図書館について知りたい」との問合せが複数のかたから寄せられました。調べたところ、それは児童文化館という施設であることがわかりました。児童文化館は昭和35年時点で2767冊の図書を所蔵しており(昭和36年版『青森市勢要覧』)、館内で閲覧することができたそうです。このメールマガジンをご覧になっている皆さんの中にも利用したことのあるかたがいらっしゃるかもしれませんね。

児童文化館は昭和31年(1956)8月15日に開館しました。図書のほか映写機、幻灯機、スライド、紙芝居もあり、さらに野球、ソフトボール、バドミントンの道具もそろっていたといえます。当初は土曜・日曜など休日のみ開館していましたが、昭和32年6月からは毎日開館するようになり、多くの子どもが利用しました(『昭和32年事務報告書』)。また、所蔵する図書は子ども会へ巡回文庫として貸し出すこともあったようです(『昭和36年事務報告書』)。

児童文化館の整備にかかる費用はなんと地域の小学生が街頭募金を行って集めました。開館を伝える新聞記事には「八年間の子どもらの夢」とあることから、整備に向けて長い間活動を続けていたことがわかります。開館式には横山實市長、加藤寿綿教育長、そして小学生の頃街頭募金に立っていたという社会人・大学生が参加しました(『東奥日報』昭和31年8月16日付)。

児童文化館の建物は新しく建設したものではなく、進駐軍が使っていた建物を再利用しました。敗戦後、合浦公園は進駐軍によって接收され、カマボコ兵舎や将校住宅が建設されました。昭和29年12月に公園全域が返還されたあともいくつかの建物が残っており、昭和30年9月に解体することになりました。しかし、それらの建物はまだ使える状態であったことから、市民から児童会館や海浜学校として使用してはどうかという声があがりました。そこで、そのうちの一棟を児童文化館として使うことになったようです。



児童文化館(昭和30年代 歴史資料室蔵)

また、この建物には中央公民館合浦分館も置かれ、成人教室(お花やお茶の教室)なども開かれました。さらに、昭和35年には市教育委員会事務局もこの建物に移転しています。

児童文化館に関する資料は少なく、残念ながら閉館した時期はわかりませんでした。なお、同じ建物を利用していた市教育委員会事務局は昭和40年に市役所第二庁舎(昭和40年3月完成)へ移転しており、同じ頃、中央公民館合浦分館も閉館したとみられます。